2022

THE ASAHI SHIMBUN
SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

令和４年度事業報告

2022年４月１日―2023年３月31日

朝日新聞厚生文化事業団

「だれもが安心して暮らせる社会」をめざして

新型コロナウイルス感染症は、2022年度も収束を迎えることはありませんでした。社会活動は徐々に活発化していますが、福祉の現場ではまだコロナ以前の状態に戻れていないようです。

朝日新聞厚生文化事業団は、22年度も「コロナ禍にあっても、実施できる事業は安全を考慮して可能な限り実施する」との方針を継続し、事業を進めてまいりました。おかげさまで助成事業をはじめとした多くの社会福祉事業を実施することができました。ご協力をいただいた支援団体や関係機関のみなさまに、心より御礼申し上げます。

私たちがこれまで力を入れてまいりました社会的養護出身の学生に奨学金を贈る「進学応援金」事業では、進学応援金を贈る大学生ら「応援生」たちと事業団がタッグを組んで社会的養護にある中学生や高校生にアドバイスやエールをおくる活動「ぴあ応援フェス」「ぴあ応援ラジオ」「ぴあ応援ブック」に取り組みました。一方で、高校就学などを支える「まなび応援金」事業も充実させています。

このほか、新たな取り組みとして「発達障がい地域生活支援」事業を開始しました。発達障がいのある人がのびのびと自身の能力を発揮しながら生活していけるよう、当事者に寄り添う支援や居心地のよい環境整備に尽力している団体に助成する事業です。認知症関連事業、災害復興を支える事業なども手がけることができました。私たちのさまざまな活動全般を、この事業報告書を通じて知っていただければ幸いです。

また、22年度は大きな組織改革を行いました。組織運営を効率的に行うため、22年8月に名古屋事務所、23年2月に西部事務所を閉鎖し、東京と大阪の二極態勢をスタートさせました。

お互いに支え合い、だれもが安心して暮らせる社会を実現したい――。私たち朝日新聞厚生文化事業団はこれからもこのビジョンを掲げ、福祉の向上につながる「地域づくり」「人づくり」「支援の輪の拡大」の三つの視点に沿って、積極的に活動してまいります。

今後とも事業団の活動への温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2023年5月

社会福祉法人　朝日新聞厚生文化事業団

目　次

「だれもが安心して暮らせる社会」をめざして …… 1

社会福祉事業

■児童福祉事業

児童養護施設・里親家庭等進学応援金…… 4

児童養護施設・里親家庭等進学応援金　ぴあ活動…… 5

自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金…… 7

東淀川ドロップインランチ助成…… 8

■障害者福祉事業

「発達障害」とともに生きる　豊かな地域生活応援助成 …… 9

ワークショップ「みんなで考える 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」……10

子どもの立場全国フォーラム……11

こどもぴあ岡山ぴーち立ち上げ記念オンラインセミナー……12

精神疾患の親に育てられた子どもの立場の「つどい」「家族による家族学習会」……13

第 39 回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト ……14

第 42 回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会 ……15

連載インタビュー「障がい」ってなに？……16

第 41 回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展 ……17

聖明・朝日盲大学生奨学金……18

■高齢者福祉事業

認知症マフワークショップ……19

認知症フレンドリーキッズ授業……20

ゆうゆうビジット……21

朝日高齢者福祉セミナー2022……22

■被災地支援

朝日のあたる家……23

災害時大学ボランティアセンター公募助成……24

東日本大震災へのご寄付／トルコ・シリア地震救援金……25

公益事業

■福祉啓発・公衆衛生事業

すくすくの森相談室……26

自殺予防公開講座……27

西部朝日福祉助成金……28

第 74 回保健文化賞 ……29

■チャリティー事業
朝日チャリティー美術展……30
朝日チャリティー色紙展……31
第 62 回各派合同三曲演奏会 ……32
第 68 回洋舞合同祭 ……33
第 72 回チャリティーコンサート・メサイア ……34
親子で楽しむ春よこいこいコンサート……35

朝日福祉ガイド　本・DVD……36

主な後援・協賛・協力事業一覧 ……37

収支／寄付報告 ……41

中期計画 2020 ……42

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ ……46

名簿（理事・監事・評議員、職員）……48

ワークショップ「みんなで考える『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』」では、精神障害のあるご本人の立場、家族の立場、両者を支える専門職の立場の方々の声を聴き、参加者とともに「理想の地域」を考えました。そこでいただいた多くのご意見をもとに、「私たちの考える理想の風景」をまとめ、可視化したパンフレットを発行しました。

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益財団法人原田積善会（協賛）
事業開始年度	2008 年度
事業の概要	児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、大学などで学ぶ方に、入学金 10 万円と卒業まで毎年 30 万円の返済不要の奨学金を贈る事業です。また、応援生とともに社会的養護の未来に貢献するための「ぴあ活動」を実施しています。
時期	5 月に募集開始。3 月に送金。
助成の目的	社会的養護で育った人の自立支援。
助成団体	
助成した人数	応援生総数 66 人（在学生 44 人、23 年度入学生 22 人）
助成総額	応援金給付総額 2320 万円（年度をまたいで送金した分も含む）
その他	本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡こども応援資金などによって行っています。 本事業へのご寄付：READYFOR クラウドファンディング 576 万 1000 円（276 件）、直接寄付 360 万 379 円（52 件） ■ぴあミーティング 応援生が交流を通し、23 年度の「ぴあ活動」を推進させるきっかけをつくる集いを、23 年 3 月 27 日に朝日新聞東京本社読者ホール（東京都中央区）で開催。新入生を含む 57 人が参加しました。内容は以下の通りです。 ・レクリエーションゲーム ・グループワーク「テーマ：社会的養護あるある」 ・「生い立ちと学生時代について／家庭を持つことについて」（応援 LINE 相談員　蛯沢光さん／なごやかサポートみらい、水野梨沙さん／同） ・新入生への説明会 ・ぴあ活動に中心となって取り組むメンバーから新入生、他の応援生に向けた活動紹介

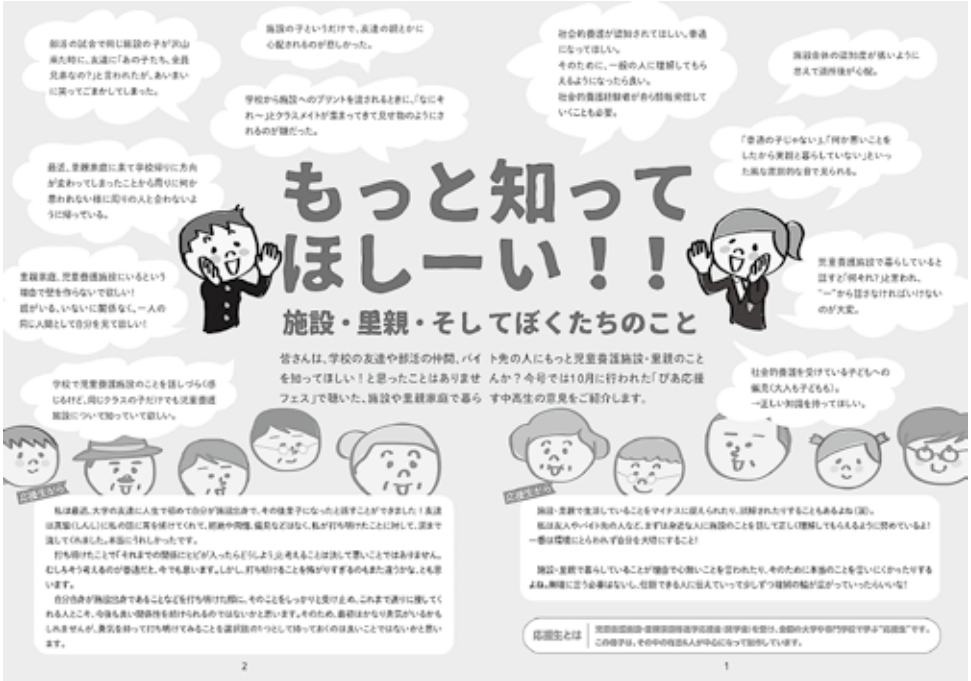
「社会的養護あるある」のテーマで体験や思いを語り合った

最後に全員で記念撮影

事業の名称	**児童養護施設・里親家庭等進学応援金　ぴあ活動 （ぴあ応援フェス、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ）**
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	ぴあ応援フェス：ぴあ応援フェス実行チーム、朝日新聞厚生文化事業団 ぴあ応援ブック：ぴあ応援ブック制作チーム、朝日新聞厚生文化事業団 ぴあ応援ラジオ：ぴあ応援ラジオ制作チーム、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	ぴあ応援フェス：デジタルハリウッド株式会社（協力）、NPO 法人なごやかサポートみらい（大人プログラム共同主催）
事業開始年度	ぴあ応援フェス：2022 年度、ぴあ応援ブック・ぴあ応援ラジオ：2021 年度
事業の概要	ぴあ応援フェス：児童養護施設や里親家庭などで暮らす中高生に、将来に関する様々な情報を届けるオンラインフェスを応援生が中心になって企画、実施しました。 ぴあ応援ブック：児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、困難を経て全国の大学などで学ぶ応援生が、後輩たちに様々な情報を届けたいと行う冊子制作です。 ぴあ応援ラジオ：児童養護施設や里親家庭などで暮らす中高生に、将来の希望につながる様々な情報を、同じ経験がある応援生たちが Youtube や Podcast 等を通して音声で届けます。
日時	ぴあ応援フェス：10 月 8 日（土）、9 日（日） ぴあ応援ブック：5 月、8 月、23 年 1 月に発行
場所	ぴあ応援フェス：オンライン
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の自立支援
事業の内容	■ぴあ応援フェス 中高生向けのブースを 6 つ、大人向けのブースを 2 つ用意し、各ブースごとにのべ 72 個の多彩なプログラムをそろえました。専門家や社会的養護で暮らした社会人の他、応援生も講師役となって運営。 中高生がオンラインで安心して参加できるようにと、60 体のオリジナルアバターも応援生らが制作しました。 ■ぴあ応援ブック 冊子の内容は、「中高生へのメッセージ」や「施設や里親家庭での体験談」、「学生のスケジュール＆収支」などで、全国の児童養護施設、里親会、児童相談所など約 900 カ所に送付しています。また、「子どもたちに直接渡したい」などの希望を受けて、30 の里親会、子育て支援の NPO 等に 1419 部を追加送付しました。 「お金のこと、人間関係の事、失敗談も入っていたので、中高生だけでなく、私たち里親にとっても参考になる本だと思いました」などの感想が寄せられました。

	■ぴあ応援ラジオ 「同じ境遇の後輩に自分たちの経験を役立てたい」と、応援生の有志がYouTube、Podcastで中高生に向けた音声・動画配信を行う「ぴあ応援ラジオ」。2年目となる22年度は企画、収録、編集のほとんどを応援生が担い、12本のコンテンツを公開しました。「大人に頼ることは必要？虐待と大人への信頼感」や「大学生ってどんな感じ？」といったテーマでゲストを招き話を聞いたほか、新たに、サブ番組「学食トーク」もスタート。応援生同士が和気あいあいとした雰囲気の中、「奨学金」や「社会的養護あるある」など、自身の経験をもとに、中高生に役立つ情報を発信しています。各方面で活躍する方々へのインタビュー企画にも挑戦しました。
参加者数	ぴあ応援フェス：延べ約200人
参加費用	ぴあ応援フェス：中高生3000円　※2日間。申込時にアンケートに答えると無料。 大人2000円　※中高生と別プログラム。8日午前中のみ。

応援生たちが司会・進行をつとめたぴあ応援フェス



ぴあ応援フェスに参加した中高生からの意見を特集した「ぴあ応援ブック」の記事

事業の名称	自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	社会福祉法人カリヨン子どもセンター（協力）、公益財団法人原田積善会（協賛）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす 10 代、20 代の若者に、高校就学や資格取得にかかる費用を支援する本事業では、2021 年度後期、22 年度前期受付として合わせて 408 人に総額 4535 万 4096 円を贈りました。
時期	2021 年 10 月から 22 年 3 月までと 4 月から 9 月までの高校等就学、資格取得を支援
助成の目的	社会的養護で暮らす子ども、若者の修学・資格取得・自立支援
助成団体	
助成した人数	就学金：のべ 384 人に給付、資格取得金：のべ 24 人に給付
助成総額	就学金：計 4222 万円　資格取得金：計 313 万 4096 円
その他	就学金：高校（全日制・定時制・通信制）などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。6ヶ月間の就学に対して 12 万円を給付（返済不要）。 資格取得金：自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付（上限 15 万円）。 今年度に対象となった資格は、自動車免許、介護支援専門員、溶接技能者資格、介護職員初任者研修など

川畠成道さんと応援生のコラボ企画を実施

応援生の活躍の場を広げることを目的に、バイオリニストの川畠成道さんとピアノを専攻する応援生のコラボレーション企画を、2023 年 3 月 25 日に浜離宮朝日ホール（東京都中央区）の「川畠成道チャリティーヴァイオリン・リサイタル」の会場で実施しました。

残念ながら、健康上の理由により川畠さんとアンサンブルを披露する予定だった応援生本人は欠席となりましたが、聴衆 326 人を前に川畠さんが代理で演奏したほか、会場のホワイエでは、応援生が行うぴあ応援フェス、ぴあ応援ラジオを動画で紹介するなど、来場された方々に活動をご紹介しました。

ホワイエに設けた応援生の
活動紹介コーナー

川畠さんは、チャリティーコンサートや高齢者施設、児童福祉施設での演奏など、社会福祉活動に取り組まれています。当事業団は引き続き川畠さんをはじめ、様々な音楽家やアーティストの方々とのコラボレーションを推進してまいります。

事業の名称	東淀川ドロップインランチ助成
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	思いがけない妊娠や育児困難などに悩む女性をランチ会に招待して見守り、問題解決につなげる活動です。大阪市東淀川区で活動する NPO 法人「女性と子育て支援グループ・pokkapoka」と東淀川区が協力して運営しています。「ドロップイン」とは「気軽に立ち寄る」という意味で、ランチ会という場で相談者にリラックスしてもらい、スタッフがその場で様々な生活や育児の悩みを聞き、その後のフォローにつなげる実効性のある活動です。活動の頻度は概ね月 1 回で年間 10 回程度、2022 年度は 12 回開催しました。 9 月には、この取り組みの具体的な方法や実績を知ってもらう勉強会を朝日新聞大阪本社アサコムホールで開催しました。当日は、助産師、行政担当者、学生などさまざまな立場の方が参加して、講師を務めた同グループ理事長の渡邊和香さんの話に熱心に耳を傾けました。
時期	
助成の目的	母子の孤立、ひきこもりや乳幼児の虐待を防ぐことを目的としていて、実績のある団体をサポートすることで母子の心身の健康を守ることに貢献しています。
助成団体	NPO 法人女性と子育て支援グループ・pokkapoka
助成した人数	
助成総額	50 万円
その他	

打ち解けた様子で談笑する参加者とスタッフ

身体測定で順調な発育を確認

事業の名称	「発達障害」とともに生きる　豊かな地域生活応援助成
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	発達障害に由来する困りごとに寄り添い、支援する活動や、その人の得意なところを伸ばすための活動に助成金を贈りました。
時期	募集期間：9 月 1 日（木）～10 月 31 日（月） 選考期間：11 月 1 日（火）～12 月下旬 助成決定通知：2023 年 1 月　助成金贈呈式：2023 年 2 月 3 日（金） 助成期間開始：2023 年 4 月～
助成の目的	本人の苦手なことや困り事に寄り添う支援、本人の得意分野を伸ばす活動や居心地のよい環境整備に力を注ぐ活動を応援し、また、障害への理解が広く浸透するよう、ともに働きかけていくことを目的とします。
助成団体	13 団体（1 団体あたり 1 年度につき最大 100 万円） ① 1 年度限りの助成 恩賜財団済生会支部北海道済生会：デジタルコンテンツとのふれあい促進事業（北海道） けやきの郷 埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」：発達障害に関わる職員の資質向上のための映像資料作成（埼玉県） 監獄人権センター：発達障がいがある刑務所出所者の社会復帰サポート事業（東京都） laule'a 遊びリパークリノアたまプラ：陶芸活動を通じた新しい体験づくり（神奈川県） 滋賀自閉症研究会たんぽぽ：自閉スペクトラム症にかかわる方のためのオンラインセミナー（滋賀県） 異才ネットワーク：安心な居場所の改修ワークショップ（滋賀県） フェルマータ合同会社：タスク管理アプリ「コンダクター」開発事業（大阪府） いねいぶる／たつのソーシャルインクルージョンプロジェクト：特別支援を必要とする児童も通える放課後児童クラブ実現のための実証研究（兵庫県） 和泊町社会福祉協議会：発達障害者生活・就労支援職員の研修事業（鹿児島県） ② 3 年継続助成（年度ごとに助成継続のための選考があります） ワンダーアート：個性を伸ばし人間性を育むアート活動（宮城県） 子育て応援隊むぎぐみ：ペアレント・トレーニングファシリテーター養成事業（埼玉県） 愛知県自閉症協会：つぼみの会・つぼみの会きょうだい会事業（愛知県） 岡山県学童保育連絡協議会：学童保育と放課後等デイ等の連携促進事業（岡山県）
助成した人数	
助成総額	1062 万 8600 円
その他	

事業の名称	**ワークショップ 「みんなで考える 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」**
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、ワークショップ「みんなで考える『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』」実行委員会
後援等	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 みんなねっと、特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構・コンボ（以上後援）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	誰もが望んだ場所で心豊かに暮らせる地域のあり方を、精神障害がある人やその家族、その支援にあたる人の視点から考えるワークショップ。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の理念のもと各地域で実践されていることや、それぞれの立場の声をもとに、当事者、家族、医療福祉関係者、行政関係者が「私たちが考える理想の地域風景」をともに考え、可視化。各地域でのアクションにつなげるフォローアップワークショップも開催しました。
日時	ワークショップ：7 月 31 日、フォローアップワークショップ：23 年 3 月 12 日
場所	オンライン
事業の目的	精神障害のあるご本人、その家族、医療福祉関係者、行政関係者がともに語りあう場を創出し、地域で暮らす人の声から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行う。
事業の内容	7 月 31 日 講義「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて」 講師：藤井千代さん（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部部長） 発表① 当事者の立場から 講師：柳沢陽子さん（退院歴 9 年） 発表② 家族の立場から 講師：坂本拓さん（精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ代表） 発表③ 支援者の立場から 講師：古橋陽介さん（特定非営利活動法人江戸川区相談支援連絡協議会） ワークショップ「私が暮らしたい理想の地域風景」 進行：古橋陽介さん 23 年 3 月 12 日（フォローアップワークショップ） 講義「“にも包括”を振り返る」 講師：古橋陽介さん パネルディスカッション 「『協議の場』って何？」 講師：古橋陽介さん、柳沢陽子さん、坂本拓さん、小林三紗さん（川口市保健所） ワークショップ（グループワーク、個人ワーク） 進行：古橋陽介さん
参加者数	7 月 31 日：155 人、23 年 3 月 12 日：42 人
参加費用	無料

事業の名称	子どもの立場全国フォーラム
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会みんなねっと、特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構コンボ（以上後援）
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	全国各地で活動をしている、障害のある親に育てられた子どもの立場のピアサポートグループ、ヤングケアラーのグループの運営に関わる人を対象にした全 3 回の研修交流会です。 活動を継続する中での悩みや成功事例を共有したり、ピアサポート活動の中で大切な、話を「聞くこと」「受け止めること」の工夫を学んだほか、自身にとってのピアサポート活動を見つめ、それを伝えるためのスキルアップを目指したプログラムを行いました。
日時	第 1 回：8 月 21 日　第 2 回：10 月 22 日　第 3 回：23 年 1 月 29 日
場所	オンライン
事業の目的	・グループを引っ張るメンバーの学び合いの場をつくり、スキルアップの機会とする ・ピアサポートグループ間のつながりをつくる ・団体を超えて支えあうことができるピアサポートの場とする ・今現在困難な状況にいる子どもたちへ支援が届くよう、障害のある人の家族の立場、ヤングケアラーの立場からの発信を行う土台をつくる
事業の内容	第 1 回研修会「聞いてみよう！他団体の取り組み」 体験発表、活動の実践報告 ・こどもぴあ ・コーダえん ・一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会 ・SODA の会 質疑応答 第 2 回研修会「グループ運営で大切なポイントをみんなで体験しよう！」 講義、ワークショップ 講師：土屋徹さん（Office 夢風舎舎長、フリーランスソーシャルワーカー） 第 3 回研修会「コミュニケーションゲームをして交流を深めよう！」 ビブリオバトル風コミュニケーションゲーム ・「自助グループとの出会い」「出会ってよかったこと」をテーマにスピーチ
参加者数	第 1 回：21 人　第 2 回：20 人　第 3 回：15 人
参加費用	無料

事業の名称	精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ 岡山ぴーち　立ち上げ記念オンラインセミナー
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 みんなねっと、特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構・コンボ、岡山県、岡山市、総社市、岡山県精神障害者家族会連合会、岡山県精神保健福祉士協会、岡山県看護協会、林友の会（以上後援）
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	精神疾患のある親に育てられた成人した子どものピアサポートグループ「こどもぴあ」。札幌、東京、大阪、福岡、沖縄に拠点があります。22 年度、岡山県にも拠点をつくろうと、「こどもぴあ岡山 ぴーち」の立ち上げを記念した、オンラインセミナーを開催しました。 その後、こどもぴあ岡山ぴーちによる「つどい」の開催にもつながり、11 月 20 日に第 1 回を実施しました。
日時	8 月 28 日
場所	オンライン
事業の目的	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・集える場を全国に広げる
事業の内容	■対象 精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の家族、子どもの立場を支えたいと願う支援者 ■プログラム ウェルカムメッセージ 総社市（岡山県で初めてケアラーを支援する条例を制定）片岡聡一市長より ビデオメッセージ 講演「子どもの立場の家族とピアサポート」 講師：横山恵子さん（横浜創英大学看護学部長 精神看護学） こどもぴあの紹介 坂本拓さん（こどもぴあ代表） 体験発表 小林鮎奈さん（こどもぴあ副代表） 居馬大祐さん（こどもぴあ副代表） グループディスカッション 子どもの立場と支援者等の立場にわかれ語り合い、意見交換
参加者数	56 人
参加費用	無料

事業の名称	**精神疾患の親に育てられた子どもの立場の「つどい」 「家族による家族学習会」**
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会みんなねっと（家族学習会共催）
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人たちがオンライン上で集まり、自らの体験やこれまで誰にも話すことができなかった思いなど、一人で抱えてきたことを、グループにわかれて語り合う「つどい」と、同じ立場の人たちが少人数で集まり、1 回 3 時間、全 5 回を通して、精神疾患や各年齢期での体験の例などが記載されているテキストにそって自身の体験を振り返り、参加者同士語り合う「家族による家族学習会」を、こどもぴあ運営のもと開催しました。 当事業団は運営をサポートしています。 学習会に参加してくださった皆さんは、終了後も、こどもぴあの運営にかかわる仲間として、つながっています。
日時	「つどい」 ① 6 月 26 日　② 9 月 25 日　③ 12 月 18 日　④ 23 年 3 月 26 日 「家族による家族学習会」 ① 2022 春　5 月 22 日、6 月 12 日、19 日、7 月 18 日、8 月 7 日 ② 2022 秋　10 月 2 日、30 日、11 月 6 日、11 月 26 日、12 月 10 日
場所	オンライン
事業の目的	・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が、仲間とつながり、生い立ちや経験を語り合い、自らの人生を豊かにするきっかけとする。 ・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・安心して集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちが SOS を発するきっかけをつくっていく。 ・子どもの立場のピアサポート活動を後押しする。
事業の内容	■つどい ・「こどもぴあ」運営メンバーによる体験発表 ・小グループにわかれての語り合い ■家族による家族学習会 ・テキストの輪読 ・各年齢期での体験を振り返り、思いを語り合う
参加者数	「つどい」① 34 人　② 35 人　③ 32 人　④ 34 人 「家族による家族学習会」① 12 人　② 9 人 （いずれも運営メンバー含む）
参加費用	2,500 円（家族学習会）

事業の名称	第 39 回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、一般財団法人全日本ろうあ連盟、朝日新聞社
後援等	公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（協力）、厚生労働省、文部科学省、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、一般社団法人 日本手話通訳士協会、全国聾学校長会（以上後援）、日本電気株式会社（NEC）（協賛）
事業開始年度	1984 年度
事業の概要	全国から 94 名の応募があり、弁論原稿での 1 次審査、課題文の手話スピーチ映像での 2 次審査を経て、コンテストに出場する 10 名が選ばれました。コンテスト出場者が「私ががんばってきたこと」「変化する社会の中で大切にしたいこと」のいずれかからテーマを選び、秋篠宮家の次女佳子さまご臨席のもと手話によるスピーチで競いました。入賞者は合わせて 5 名でした。
日時	4 月 1 日（募集開始）、6 月 22 日（1 次審査）、7 月 28 日（2 次審査）、9 月 10 日（コンテスト）
場所	1 次・2 次審査会：オンライン／コンテスト：有楽町朝日ホール
事業の目的	手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進。
事業の内容	■入賞者 1 位　髙橋萌花（愛知県立岡崎高等学校 2 年） 2 位　諸林摩耶（熊本県立熊本聾学校 2 年） 3 位　瀬戸穂香（宮城県・クラーク記念国際高等学校　仙台キャンパス 2 年） 奨励賞　吉瀬千咲（埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 2 年） 髙橋葵（愛媛県・済美平成中等教育学校 1 年） ■出場者 及川采優（北海道札幌手稲高等学校 2 年）／髙濵彩佑生（神奈川県立平塚ろう学校 3 年）／髙澤由紀菜（神奈川県立横浜南陵高等学校 3 年）／中越未唯（愛知県・桜花学園高等学校 3 年）／山本宗明（大分東明高等学校 2 年） ※入賞者には賞状・トロフィー・楯など、また NEC からノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈呈されました。また、出場者全員に NEC からコンテストの録画 DVD が贈られました。 ■特別プログラム　対談「巻き込む力」 早瀬憲太郎（全日本ろうあ連盟の創立 70 周年記念映画「咲（え）む」監督・脚本）、藤田菜々子（同主演俳優） ■審査員 小椋英子・日本手話通訳士協会相談役、奥出吉規・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、山根昭治・全日本ろうあ連盟理事、有山一博・全日本ろうあ連盟理事、粟野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、板垣哲也・朝日新聞論説委員
参加者数	94 人（応募者）
参加費用	

事業の名称	**第42回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会**
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	九州車いすバスケットボール連盟、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	大分県、別府市、一般社団法人大分県バスケットボール協会、一般社団法人大分県障がい者スポーツ協会など（以上後援）
事業開始年度	1980年度
事業の概要	九州車いすバスケットボール連盟に所属するチームが参加する大会で、第1回大会から連盟とともに主催し、助成金支出などで大会運営を長く支えています。以前は「天皇杯　日本車いすバスケットボール選手権大会」に出場する九州地区代表を決める予選会を兼ねていましたが、今回から予選会とは切り離した独立の開催としました。参加チームの裾野がより広がると期待しています。
日時	11月26、27日
場所	べっぷアリーナ（大分県別府市）
事業の目的	障害者スポーツの振興を図るとともに、大会を通じて選手相互や地域住民らとの交流を推進することを目的としています。
事業の内容	九州・沖縄から参加の11チームがトーナメント方式で2日間にわたって熱戦を繰り広げました。新型コロナの第8波やインフルエンザの流行などが心配されましたが、選手のみなさんはそれぞれ万全の対策をとって参加しました。決勝は「長崎サンライズ」（長崎）と「ライジングゼファーフクオカ Wheelchair」（福岡）の対戦となり、長崎が55対48で勝利し、悲願の初優勝を飾りました。3位には「SEASIRS（シーサーズ）」（沖縄）が入りました。
参加者数	九州・沖縄から11チームが参加。
参加費用	各チーム2万円

11チームが2日間にわたって熱戦を繰り広げた

事業の名称	**連載インタビュー「障がい」ってなに？もっと身近に、聞いて、感じて、知ってみよう！**
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	障がいの有無をはじめ、置かれた環境の違いにかかわらず、さまざまな人がともに過ごせる社会にするためには、どのようにすれば良いのでしょうか。 障害のあるご本人やご家族、ご本人を支える職業に就く方々に「バリアフリー」をテーマに話を聞き、社会に対して感じている生の声を届ける連載インタビューです。当事業団ホームページに掲載しています。 アンケートフォームを通じて、こんなことを知りたい、これってどういうこと？という読者のご希望、ご意見も受け付けています。
日時	
場所	
事業の目的	障がいがある人のこと、障がいがある人を支えている人のことを知ってもらうための連載インタビューです。
事業の内容	第 1 回ゲスト 三枝正規さん（社会福祉法人　東京都手をつなぐ育成会、中央区立知的障害者支援施設レインボーハウス明石　主任支援員） 第 2 回ゲスト 片平考美さん（日本視覚障害者団体連合・青年協議会会長、静岡県立静岡視覚特別支援学校・小学部教諭）
参加者数	
参加費用	

事業の名称	**第 41 回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展**
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	社会福祉法人日本肢体不自由児協会、各道府県肢体不自由児協会
後援等	厚生労働省、文部科学省、東京都、朝日新聞厚生文化事業団など
事業開始年度	1982 年
事業の概要	全国の肢体不自由児・者から 405 点の絵画、コンピュータアート、書のいずれかの応募作品が寄せられ、これらの中から特賞、優秀賞、佳作、努力賞の計 112 点、デジタル写真展では 408 点の応募作品の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計 110 点が選ばれました。昨年に引き続き、表彰式はオンライン会議ツール「zoom」を利用し行われ、受賞者は学校や自宅などから式に参加しました。
日時	12 月 1 日
場所	東京芸術劇場（東京都豊島区）
事業の目的	肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的としています。
事業の内容	朝日新聞厚生文化事業団賞を受賞したのは西国領竜次さん（鹿児島・串木野養護学校小学部 6 年、絵画「きりんのおやこ」）と真崎菜奈子さん（東京・光明学園高等部 3 年、書「とら」）の 2 人。当事業団の笠原章宏事務局長は、西国領さんの描く「きりんのおやこ」を「とても生き生きとしている」と称え、真崎さんが題材に選んだ「とら」の曲線が「非常にきれい」と評しました。入賞作品の一部は 12 月 1 日から 4 日まで同劇場 5 階ギャラリーで展示されました。
参加者数	
参加費用	無料

朝日新聞厚生文化事業団賞を受賞した西国領竜次さん（左）と真崎菜奈子さん

事業の名称	**聖明・朝日盲大学生奨学金**
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	社会福祉法人聖明福祉協会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	1969 年度
事業の概要	視覚障害のある学生を支援するための奨学金。
日時	
場所	
事業の目的	
事業の内容	奨学金として在学期間中に毎月 4 万円を貸与する。 2022 年度は 1 人に助成が内定した。
参加者数	
参加費用	

事業の名称	**認知症マフワークショップ**
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	イギリスなどの高齢者施設や病院で認知症の人が使っている筒状のニット小物“Twiddle Muff”（トゥイドルマフ）は、内側と外側に複数の小物が縫い付けられていて、認知症の人がそれらに触れると落ち着きや安心感を得られるそうです。ボランティアが製作して高齢者施設や病院に贈っています。朝日新聞厚生文化事業団では「認知症マフ」と名付け、マフの作り方や活用事例、ボランティア活動について学ぶワークショップを開催しています。
日時	2022 年 4 月 2 日（大阪）、6 月 11 日（香川県高松市）、10 月 8 日（山形県鶴岡市）、11 月 6 日（浜松医科大学）、12 月 3 日（東京）、2023 年 3 月 18 日（大阪）
場所	
事業の目的	認知症マフを通じて認知症の当事者支援、当事者を支える人の支援、認知症に対する偏見を取り除くこと、認知症にやさしい地域づくりの促進をテーマとしています。
事業の内容	福祉、医療、教育などさまざまな分野からのご理解によって、全国各地の家庭、高齢者施設、医療機関などで実際に認知症マフの輪が広がり始めました。カラフルなニットが使う人に安らぎをもたらしたり、関わる人々をゆったり温かくつなぐ様子は、新聞紙面の記事でも大きな反響を呼びました。地域ボランティア活動開始の相談にも対応し、地域福祉の実践的な担い手を増やすお手伝いをしています。
参加者数	228 人
参加費用	3,000 円（資料、材料費込み）

10 月 8 日に山形県鶴岡市で開催したワークショップで、ニット作家・能勢マユミさんの話に熱心に耳を傾ける参加者

参加者が完成させた認知症マフ

事業の名称	認知症フレンドリーキッズ授業
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019 年度
事業の概要	小学校 4～6 年生を対象にした、認知症について学ぶ特別授業です。特徴は VR（バーチャルリアリティー）を使った認知症の人が見る世界の疑似体験です。
日時	2022 年度の開催 ①神奈川県伊勢原市役所保健福祉部介護高齢課（7 月 23 日）②岐阜県土岐市役所健康福祉部高齢介護課（7 月 30 日）③愛知県豊川市社会福祉協議会（8 月 2 日）④岐阜県東海市社会福祉協議会（8 月 3 日）⑤大阪府熊取町社会福祉協議会（8 月 8 日）⑥大阪府四條畷市社会福祉協議会（8 月 19 日）⑦北海道恵庭市役所保健福祉部介護福祉課（9 月 11 日）⑧大阪府守口市立梶小学校 4 年生（9 月 29 日）⑨岐阜県瑞浪市役所民生部高齢福祉課（10 月 2 日）⑩静岡県立田方農業高等学校ライフデザイン科 2 年生（10 月 11 日）⑪熊本県氷川町立竜北東小学校 6 年生（12 月 15 日）⑫大分県別府市立亀川小学校 5 年生（1 月 17 日）⑬奈良県明日香村立明日香小学校 6 年生（1 月 20 日）⑭大阪府枚方市立香里小学校 5 年生（1 月 23、30 日）⑮大阪府枚方市立小倉小学校 5 年生（1 月 26 日）⑯岐阜県土岐市立土岐津小学校 4 年生（2 月 10 日）⑰広島県世羅町福祉課（3 月 8 日）
場所	
事業の目的	認知症について先入観を持たない児童期のうちに、認知症のことを正しく学び、認知症に対して差別や偏見を持たない、認知症の人と地域でともに暮らす「共生社会」について考えます。
事業の内容	認知症になっても当事者が住み慣れた地域でこれまで通りに自分らしく暮らしていくために、住民や地域の環境がどのように変わればいいのかを学びます。授業は 3 つのパートに分かれており、最初にテキストやスライド資料を見ながら認知症に関する基礎知識を学びます。次にバーチャルリアリティー（VR）を視聴します。NTT ラーニングシステムズがキッズ授業のために開発したスマホを使った VR 一括制御システムで、突然自分の居場所が分からなくなったり、階段を下りるのに苦労したりする様子を疑似体験します。最後は授業で学んだ「認知症の人の気持ち」「認知症の人にやさしいお店やサービス」のアイデアを出し合い、ポスターにまとめて発表します。
参加者数	560 人
参加費用	無料

事業の名称	**ゆうゆうビジット**
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2010 年度
事業の概要	外出の機会が少ない高齢者施設の入所者や利用者らを対象に、音楽家の生演奏や力士との交流など憩いのひとときをお届けするプログラムです。
日時	2023 年 1 月 22 日
場所	介護付き有料老人ホーム「チャームスイート緑地公園」（大阪府豊中市）
事業の目的	特別養護老人ホームや介護福祉施設などで生活する高齢者の生きがいづくり
事業の内容	新型コロナウィルス感染予防の観点からしばらく休止していましたが、女性音楽家グループ・ベルリントリオと介護付き有料老人ホーム「チャームスイート緑地公園」の協力により、試験的に実施しました。 通常は 1 回の公演ですが、「密」を避けるため、2 回に分けて実施。入所者に約 30 人ずつ集まってもらう形式をとりました。 ベルリンに留学経験がある石田聖子さん（チェロ）、宮田英恵さん（バイオリン）、宮本聖子さん（ピアノ）の 3 人は、「エリーゼのために」「上を向いて歩こう」「ふるさと」などクラシックの名曲から童謡までバラエティーに富んだ約 10 曲を披露しました。
参加者数	60 人
参加費用	無料

ベルリントリオの 3 人が童謡など約 10 曲を披露した

事業の名称	朝日高齢者福祉セミナー2022
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、愛知高齢者福祉研究会
後援等	愛知県保険医協会（協賛）、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会ほか（後援）
事業開始年度	1989 年ごろ
事業の概要	高齢者医療・福祉についてさまざまな角度から考える実践的な研究会。保健・医療・福祉などの専門職や当事者が参加し、国の医療や年金、介護などの政策動向の研究のほか、地域で具体的に取り組んでいる在宅ケアの実践報告などを行っている。
日時	10 月 2 日
場所	名古屋市総合社会福祉会館（名古屋市）
事業の目的	保健・医療・福祉などさまざまな側面から、高齢者が生きがいを持って豊かに生きていくための課題の研究
事業の内容	午前の部（研究大会）の会員による報告の後、「感染症から大切な人を守る；With COVID-19 及び新たな感染症に対して」をテーマに高橋朝美・独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院感染対策室副看護師長が基調講演。その後、「高齢者ケアの場における感染症対策」をテーマにシンポジウムを開催した。コーディネーターを小木曽加奈子・岐阜大学医学部老年看護学分野准教授が務め、パネリストとして横山礼・介護老人保健施設山県グリーンポート看護介護部課長、山下科子・中部学院大学人間福祉学部准教授が参加した。
参加者数	研究大会：21 名、朝日セミナー：26 名
参加費用	参加費 1000 円

事業の名称	朝日のあたる家
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、NPO 法人福祉フォーラム・東北
後援等	
事業開始年度	2012 年度
事業の概要	朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、13 年 2 月に誰でも気軽に立ち寄り、情報交換をしたり地域に根ざしたイベントを開催する場として岩手県陸前高田市米崎町に開設され、これまで NPO 法人「福祉フォーラム・東北」の方々と共に歩みを進めて参りました。23 年 2 月で、みなさまのご支援に支えられ 10 周年を迎えました。
日時	
場所	岩手県陸前高田市
事業の目的	東日本大震災被災地復興支援事業として実施しています。陸前高田市の住民の方々はもちろんですが、地域の関係機関の方々ともさらに連携を深めながら、朝日のあたる家が地域の資源として根付き、豊かな社会作りに寄与できるような取り組みを進めています。
事業の内容	朝日のあたる家では、地域の方々の交流の場として、来られた方が心地よく過ごせるような雰囲気づくりを目指しながら、地域の方々と一緒に数々のプログラムを開催しています。 ・「アップルカフェ（認知症カフェ）」 認知症の方やそのご家族、地域の方に自由にご参加いただき、認知症の方が住み慣れた地域での暮らしを継続できるようなつどいの場 ・「みんなでごはん」 食べる・作る・会う・参加するすべての楽しみを味わいながら元気を持続していくことを願い開催。 ・「いきいき百歳体操」 身体機能の維持だけでなく、心の豊かさを作り上げる。 ・「生き活き朝日」（陸前高田市通所型サービスＢ事業） 17 年度より実施。百歳体操や交流活動などを開催。 ・そのほかにも、手芸や囲碁・将棋などのサロンや、障がいのある方々がコーヒーを淹れておもてなしする「ほっとカフェ」、館長による「健康相談」なども開催。
参加者数	4129 人（年間の来館者）
参加費用	原則無料（一部イベントは有料）

アップルカフェ（認知症カフェ）の様子

朝日のあたる家全景

事業の名称	**災害時大学ボランティアセンター公募助成、災害時の支援活動の協力に関する協定**
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019 年度
事業の概要	2019 年度に、9 団体へ総額約 410 万円を助成した「台風 19 号災害大学ボランティアセンター公募助成」。助成団体の活動が本格化していく矢先、感染が拡大していった新型コロナウイルス。活動の制限が余儀なくされる状況が続いたため、助成活動対象期間を延長し、各団体の活動を継続して応援してきました。各団体が助成対象期間内の活動をいったん終えたことをふまえ、活動報告会を開催。各団体が活動を通して得た経験や学びを共有しあい、相互交流を深める機会としました。 また、災害時の早期活動を支援するネットワークづくりも進め、新たに、3 大学と「災害時の支援活動の協力に関する協定」を締結しました。22 年度末で、12 団体と締結しています。
日時	活動報告会：6 月 19 日　　協定締結：随時
場所	オンライン
事業の目的	・ボランティアの携わる学生同士の学び合いの機会、ネットワークの創出により、各地での学生ボランティア活動を発展させる。 ・豪雨などの災害が今後発生する可能性に備え、協力関係を築ける団体を増やし、災害後速やかに活動を支援できる枠組みを強化する。
事業の内容	活動報告会は、「2019 年度台風 19 号 大学ボランティアセンター公募助成」贈呈団体 9 団体のうち 7 団体が参加し、実践報告、ワークショップを実施。 ■プログラム 実践報告「コロナ禍に災害支援と向き合って」 福島大学、中央大学、淑徳大学 ワークショップ「『つながり』を活かした活動展開に向けて」 講師：早瀬昇さん（大阪ボランティア協会理事長） ■参加団体 仙台大学災害ボランティア派遣組織健康づくり運動サポートグループ（宮城県）、宮城大学みやぎ食の応援団（同）、福島大学災害ボランティアセンター（福島県）、淑徳大学　地域支援ボランティアセンター（千葉県）、中央大学ボランティアセンター（東京都）、常葉大学 ThunderBirds（サンダーバード）（静岡県）、大阪公立大学ボランティア・市民活動センター V-station（大阪府）
参加者数	7 団体から合計 18 人（学生・卒業生 10 人、大学教職員 8 人）
参加費用	無料

東日本大震災へのご寄付、22年度は172万円

事業団の東日本大震災救援事業へ2022年度に寄せられたご寄付は121件、171万7701円に上りました。

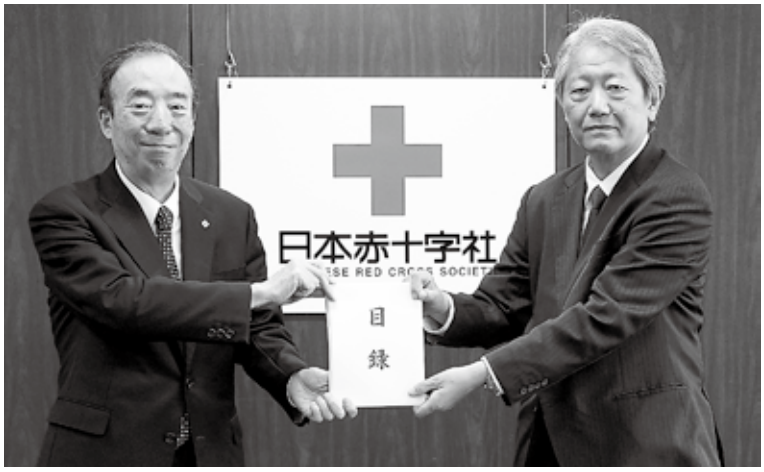
東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、23年3月末で約9万件、総額37億5833万9574円となりました。

【年度別】

10年度：17億1703万9856円
11年度：17億9627万3050円
12年度：1億1362万4052円
13年度：4572万1384円
14年度：2359万9869円
15年度：1847万7091円
16年度：955万8676円
17年度：767万8278円
18年度：774万7348円
19年度：530万5268円
20年度：326万1002円
21年度：833万5999円

トルコ・シリア地震救援金を呼びかけ

23年2月に発生したトルコ・シリア地震の被災者のため、事業団と朝日新聞社は2月10日～4月10日にかけて救援金を募りました。期間中に受け付けた1590件、総額3123万6237円を、日本赤十字社に寄託しました。同社を通し、国際赤十字が行っている避難所支援や救援物資の配布などの支援活動に活用されます。



4月5日に救援金の第1期分として、1297件、計2555万7515円を日本赤十字社に寄託した。
目録を受け取る同社の清家篤社長（左）と事業団の藤井龍也理事長

事業の名称	すくすくの森相談室
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	こども本の森 中之島（協力）
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	乳幼児を育てる保護者の不安や迷いに寄り添うグループ子育て相談です。毎月 2 回、小児科医、助産師、インストラクターのいずれかを相談員に招き、①グループ子育て相談タイム、②フリータイムの流れで、話をしたりおもちゃで遊ぶなど、親子で緩やかに過ごしてもらう約 80 分間のプログラムです。身体測定やこども本の森スタッフによる絵本の読み聞かせも行っています。
日時	毎月 1～2 回
場所	こども本の森 中之島（大阪市）
事業の目的	子育て支援
事業の内容	足を踏み入れた途端に大阪のオフィス街という立地を忘れてしまうような開放感と温もりに満ちた図書施設「こども本の森 中之島」。建築家の安藤忠雄氏によって建てられ、ちびっ子たちの元気な声が響く特別な場所で昨年 4 月から活動をスタートしました。1957 年から 2021 年まで 65 年間続いたあべのハルカス近鉄本店をはじめとする関西有名百貨店での子育て支援事業「アサヒベビー相談室」を継承し、大阪公立大学を中心とする小児科医、大阪府助産師会所属の助産師、インストラクターといった先生方とタッグを組んで乳幼児期の子育ての迷いや不安を抱える保護者をお迎えしています。 4 月から 9 月までは毎月 1 回開催していましたが、話しやすさと居心地の良さが大変好評で、毎回予約がすぐに満席になってしまうことから、10 月からは開催回数を毎月 2 回に増やしました。参加者からは、「先生にたくさん質問できてよかった」「同じ月齢・年齢のお子さん連れと過ごせて楽しかった」という感想を多数いただいています。
参加者数	276 人（16 回開催）
参加費用	無料

会場の「こども本の森 中之島」の館内

初対面の参加者同士でゆるやかに交流

事業の名称	**自殺予防公開講座**
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	社会福祉法人福岡いのちの電話、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	福岡県、福岡市、九州朝日放送、朝日新聞社（以上後援）
事業開始年度	2005 年から実施。
事業の概要	福岡市内の会場で、「いのちの大切さ」「生きることの意味」など自殺の予防につながる講演会を年に 1 回実施しています。誰でも無料で参加でき、事前申し込み制です。一般の方はもちろん、「いのちの電話」のボランティアスタッフも多数参加しています。
日時	2023 年 3 月 5 日
場所	レソラホール（福岡市）
事業の目的	広く自殺予防の啓発が目的ですが、この機会に「いのち電話」の活動を多くの市民に知ってもらうことや、外部講師の話をうかがうことで、「いのちの電話」の電話応答ボランティアらの研修の機会にもなればと考えています。
事業の内容	講師＝豆塚エリさん（車いすの詩人・エッセイスト）による講演「しにたい気持ちが消えるまで～しにたい気持ちを抱える子供たちへ先輩が伝えたいこと～」
参加者数	190 人
参加費用	無料

講演の様子

豆塚エリさん

事業の名称	西部朝日福祉助成金
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2005 年度以前
事業の概要	「福祉啓発推進事業」や「児童福祉事業」として、地域に根ざした社会福祉活動に継続的に取り組んでいる団体に対して助成金を支給しています。
時期	年 1 回（1 月までに申請書の提出を受け、2〜3 月に支給）
助成の目的	地域で続いている地道な社会福祉事業への支援が目的で、使途は問わず、運営費として活用してもらうことで、各団体に喜ばれています。
助成団体	・社会福祉法人福岡いのちの電話（福岡市中央区舞鶴 2-7-7）15 万円 ・社会福祉法人北九州いのちの電話（北九州市小倉北区井堀 5-1-3）15 万円 ・公益社団法人福岡県交通遺児を支える会（福岡市中央区天神 5-5-8）15 万円
助成した人数	団体に対する助成
助成総額	45 万円
その他	福岡いのちの電話と北九州いのちの電話は、それぞれ 24 時間・365 日年中無休で、様々な悩みの相談に応じていますが、コロナ禍以降、「死にたい」など深刻な内容の電話が増えているといいます。一方でボランティアの相談員は高齢化もあって担い手不足になっており、新たな相談員の養成が課題です。福岡県交通遺児を支える会は、交通事故で父母らを亡くした子どもたちに奨学金などを贈っていますが、コロナ禍以降は、対面での活動が制約されているそうです。

西部朝日福祉助成金の目録を受け取った各団体の代表者

事業の名称	第 74 回保健文化賞
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	第一生命保険株式会社
後援等	朝日新聞厚生文化事業団、厚生労働省、社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団（以上後援）
事業開始年度	1950 年度
事業の概要	健康増進、疾病予防などの保健衛生分野、高齢者・障害者支援の保健福祉分野、少子化対策等、地域に密着した地道で身近な活動や、実際的な活動を行っている団体や個人を表彰する。 受賞者には感謝状、賞金（団体 200 万円、個人 100 万円）、朝日新聞厚生文化事業団賞（トロフィー）などが贈られる。
日時	2 月 1 日～4 月 15 日（募集）、12 月 13 日（贈呈式）
場所	明治記念館（東京都千代田区）
事業の目的	保健衛生に従事する方々の功績や労苦に対し、感謝と敬意をささげる。
事業の内容	■第 74 回受賞者（10 団体、5 個人） 【団体】埼玉骨髄バンク推進連絡会、一般社団法人 OVAL HEART JAPAN（東京都）、認定特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ（同）、公益社団法人神奈川県助産師会立とわ助産院、長野県信鈴会、津具ロコモ予防体操教室（愛知県）、ナーベルプラ座（同）、公益社団法人大阪府看護協会、HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」（広島県）、障害学生パートナーシップネットワーク付属熊本県発達障害当事者会 Little bit 【個人】豊嶋崇徳（北海道）、今明秀（青森県）、五十嵐千代（埼玉県）、松平浩（東京都）、下浦佳之（兵庫県）
参加者数	
参加費用	

第 74 回保健文化賞の受賞者ら

事業の名称	朝日チャリティー美術展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020年度からリニューアルして開催
事業の概要	日本画家、洋画家、陶芸家などの美術家の出品作品をインターネットで展示販売し、収益を社会福祉事業にあてるチャリティー展。東京・大阪・名古屋で実展示も行った。
日時	6月7日～28日（ネット展示）、11日、12日（大阪会場）、18日、19日（名古屋会場）、25日、26日（東京会場）
場所	インターネット開催、朝日新聞社大阪本社アサコムホール（大阪会場）、妙香園画廊（名古屋会場）、朝日新聞社東京本社読者ホール（東京会場）
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる
事業の内容	227作品をインターネット上で展示し、サイレントオークション形式で販売。 ■主な出品作家（敬称略） 石踊達哉、井上萬二、井口由多可、岩波昭彦、永樂而全、大津英敏、 大矢十四彦、岡信孝、奥谷博、笠井誠一、川島睦郎、絹谷幸二、栗原幸彦、 黒木国昭、酒井英利、坂元洋介、椎名保、下田義寛、鈴木爽司、千住博、 高梨芳実、伊達良、谷川泰宏、中島千波、中村宗弘、那波多目功一、 福井江太郎、福岡通男、藤原秀一、二川和之、松浦安弘、村山明
参加者数	期間中の入札数　625件
参加費用	
収入	落札総額　2797万6000円

名古屋会場での実展示の様子

事業の名称	**朝日チャリティー色紙展**
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	著名人や漫画家の方々から寄贈された色紙を販売し、収益を社会福祉事業にあてるチャリティー色紙展。
日時	2023 年 2 月 1 日～2 月 14 日
場所	インターネット開催
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる
事業の内容	53 名の著名人や漫画家の方々から寄贈された 73 作品を、インターネットで、サイレントオークション形式で販売しました（入札開始価格は一律 2 万円）。 ■主な寄贈者（敬称略） 魚豊、宇野亞喜良、かわぐちかいじ、北見けんいち、小林有吾、小山愛子、佐藤邦雄、千玄室、ちばてつや、弘兼憲史、美樹本晴彦、三田紀房、森清範、安彦良和、山村東、和久井健
参加者数	期間中の入札数　752 件
参加費用	
収入	落札総額　723 万 6000 円

事業の名称	**第 62 回各派合同三曲演奏会**
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	
事業の概要	1959（昭和 34）年にはじまった歴史ある邦楽の演奏会で、箏、三絃、尺八の各派社中が大阪で競演。
日時	11 月 23 日
場所	NHK 大阪ホール
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	今年で最後の開催となりましたが、多くの方にご来場いただき、伝統ある和の華やかな演奏をお楽しみいただきました。 当日は新型コロナウイルス感染対策を徹底して実施し、14 団体が演奏しました。 ■出演団体 菊武厚詞と当道友楽会、菊塚春秋会、八千代会、箏曲栄琴会、大阪正絃社、箏曲和光会・琴古流玉川社、酒井典彦社中、都山流大阪府支部、菊扇弘子と壽扇会、菊井松音と菊井箏楽社、遊琴会、中扇喜会、中村双葉と葉風会、須山知行・中島警子社中
参加者数	590 名
参加費用	
収入	359 万 9000 円

最後にあいさつする宮城会名誉理事の中島警子さん

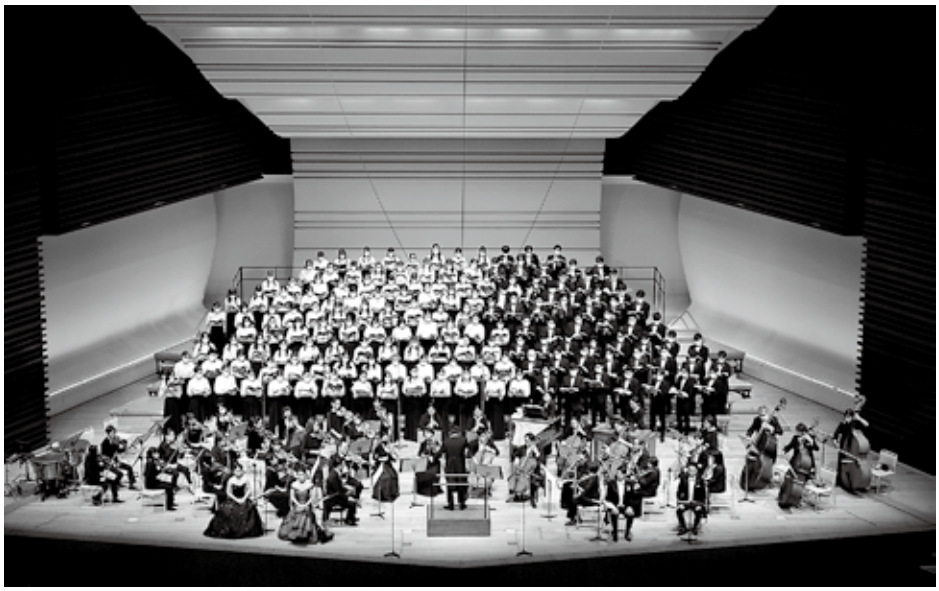
事業の名称	**第68回洋舞合同祭**
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	1953年度
事業の概要	関西のクラシックバレエとモダンダンスの団体が出演する年末恒例のチャリティーです。 両日共、前半は従来の参加団体が出演、後半に牧阿佐美バレエ団プリンシパルの青山季可さん、菊地研さんをお迎えし、公募で選出した45人のダンサーも出演しました。また戦禍にあるウクライナから兵庫県淡路島に避難し生活するダンサーのスヴェトラーナ・シュリヒテルさん、ネリア・イワノワさんと支援者の針山愛美さんによる演目もありました。
日時	12月26日、27日
場所	フェスティバルホール（大阪市北区）
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	■26日　宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ、江川バレエスクール、波多野澄子バレエ研究所、スズキ・バレエアート・スタジオ ■27日　野辺恵バレエスタジオ、現代舞踊協会関西支部、バレエスタジオミール、ソウダバレエスクール ■両日　「ライモンダ第3幕」(26日)、「ドン・キホーテ第3幕」(27日) 青山季可（牧阿佐美バレエ団プリンシパル）、菊地研（同） 宗近匠、大西慎哉、石神航一、田中陣之介、西田風也、マイヤー・敬洋・ハリースヴェトラーナ・シュリヒテル、ネリア・イワノワほかオーディションで選ばれたダンサー45人 《演出／振付》岡田兼宜《ミストレス》太田紫乃 「平和の祈り」 針山愛美、スヴェトラーナ・シュリヒテル、ネリア・イワノワ
参加者数	26日　1328人、27日　1341人
参加費用	BOX席1万円、S席5000円、A席4000円、B席3000円、チャリティーバルコニーBOX席（ペア席）10万円
収入	1292万2454円

江川バレエスクール
「子供のためのバレエ
ある日のレッスン風景」

「ライモンダ第3幕」

撮影＝田中聡
（テス大阪）

事業の名称	第72回チャリティーコンサート・メサイア
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	国立大学法人東京藝術大学（協力）、公益財団法人原田積善会（特別協賛）
事業開始年度	1951年度
事業の概要	東京藝術大学音楽学部の協力を得て、毎年歳末に開催しているチャリティーコンサート。演目は慈善を目的とした演奏会の源流ともいわれるG・F・ヘンデルの「メサイア」。
日時	12月22日
場所	東京文化会館大ホール（東京都台東区）
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	オラトリオ「メサイア」の全曲演奏。 ■出演 演奏：藝大フィルハーモニア管弦楽団 独唱：東京藝術大学大学院生　西田幸里海（ソプラノ）、後藤真菜美（アルト）、河野泰佑（テノール）、大野光星（バス） 合唱：東京藝術大学音楽学部声楽科学生 指揮：山下一史 合唱指揮：辻秀幸
参加者数	約1650人
参加費用	ＳＳ席＝7000円、Ｓ席＝6000円、Ａ席＝5000円、Ｂ席＝4000円、Ｃ席＝3000円、Ｄ席＝2000円
収入	927万円（チケット収入、プログラム・ポスター販売、協賛金の合計）



学生たちはマスク着用を感じさせない豊かな歌声を響かせた

事業の名称	**親子で楽しむ春よこいこいコンサート**
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	株式会社ソングブックカフェ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2000 年度
事業の概要	子どもから大人まで親子で一緒に楽しめる参加型のコンサートです。22 回目を迎えた 22 年度は、3 年ぶりに、有楽町朝日ホールでの有観客でのコンサートが実現しました。同時に、ライブ配信も行いました。中川ひろたかさん率いるソングブックカフェメンバーらが、音楽やダンス、たくさんのあそび、絵本の朗読など盛りだくさんの内容をお届けしました。 ※当初「親子で楽しむクリスマスコンサート」を 12 月に予定をしていましたが、出演者、スタッフの健康上の理由で開催を延期し、コンサート名を変更の上、1 月の開催となりました。
日時	2023 年 1 月 28 日
場所	有楽町朝日ホール（東京都千代田区）
事業の目的	・小さな子どもから大人まで一緒に楽しめる機会とするとととともに、保育者が子どもとのかかわりのヒントを得られるようにする。 ・収益を福祉事業に充てる。
事業の内容	中川ひろたかさん、鈴木翼さん、ロケットくれよんの山口たかしさん・高田さとしさん、福田翔さん、gaagaaS のまつむらしんごさん・別府のどかさん、本田洋一郎さんが出演。 世代を超えて愛される名曲「世界中のこどもたちが」のほか、絵本の朗読、子どもたちも一緒に参加できる「あそびうた」などが披露された。
参加者数	来場観覧：349 人 ライブ配信：60 組
参加費用	前売券 3300 円　当日券 3850 円
収入	株式会社ソングブックカフェ様からの寄付　30 万円

出演者全員での演奏

参加者と一体となり絵本を朗読する中川ひろたかさん

朝日福祉ガイド　本・DVD

朝日福祉ガイドブック

・四行からはじめる遺言作成Ｑ＆Ａ　　1,320 円
・生き方、逝き方ガイドブック　　1,320 円
・なるほど高次脳機能障害　　1,320 円
・みんなのうつ　　1,100 円
・認知症とともに　　1,100 円
・自閉症の人たちを支援するということ　　880 円
・自閉症のひとたちへの援助システム　　550 円
・100％あらたくん　　660 円
・精神障害者のホームヘルプサービス　　880 円

朝日福祉ガイド DVD

・自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～
　全 3 巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
・自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～
　全 3 巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
・自閉症の子どもの評価　生活スキル編
　全 4 巻セット 18,480 円、各巻 4,950 円
・自閉症の子どもの自立課題
　全 3 巻セット 13,860 円、各巻 4,950 円
・TEACCH プログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～
　各巻 3,080 円
　　自閉症児の明日のために～TEACCH のねらいと考え方
　　親のための TEACCH プログラム
　　教師のための TEACCH プログラム
　　青年期・成人期の TEACCH プログラム

※本・DVD ともに価格はいずれも税込。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事 主催者　▽会場	
■本部（東京）・名古屋事務所		
4 月～5 月	令和 4 年度愛知県障害者スポーツ大会 愛知県、愛知県社会福祉協議会　▽名古屋市など 4 会場	後援
4 月～ 10 月	第 74 回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 愛知県共同募金会ほか　▽ＮＨＫ名古屋放送局センタービル	後援
4/20～ 11/20	第 19 回名古屋市障害者スポーツ大会 名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会ほか　▽名古屋市障害者スポーツセンターほか	後援
5/26～28	ウェルフェア 2022～福祉・医療・健康の総合展～ 名古屋国際見本市委員会ほか　▽吹上ホール（名古屋市）	後援
5/28・29	第 37 回 DPI 日本会議全国集会 DPI 日本会議　▽オンライン	後援 助成
7/1～31	2022 年「頭頸部外科月間」 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　▽全国各地	後援
7/2	第 59 回心身障害問題を考える集い あさみどりの会ほか　▽オンライン	後援
7/3	第 38 回愛知県聴覚障害者大会 愛知県聴覚障害者協会　▽豊川市勤労福祉会館	後援
7/8・9	第 71 回関東聾学校陸上競技大会 関東聾学校体育連盟　▽三ツ沢公園陸上競技場（横浜市）	後援
7/17、9/18、 10/16、8/20・21	第 48 回愛知心理療育キャンプ 愛知心理療育親の会　▽愛知教育大学特別支援教育棟（刈谷市）ほか	後援
7/21～30	第 39 回福祉施設絵画展 名古屋市社会的養育施設協議会ほか　▽海の家　篠島ほか	後援
7/27・28	第 71 回関東聾学校バレーボール大会 関東聾学校体育連盟　▽川崎市とどろきアリーナ	後援
8/1～3/26	インクルージョンフェスティバル 2022 インクルージョン実行委員会　▽羽田空港など全国各地	後援
8/11	第 6 回全国視覚障害者囲碁大会【延期】 日本点字図書館、日本福祉囲碁協会　▽リフレッシュ氷川（東京都渋谷区）	協賛
8/29～31	第 73 回全日本少年野球大会 厚生労働省、全国児童自立支援協議会ほか　▽岩手県営野球場（盛岡市）ほか	後援
9 月	第 52 回朗読録音奉仕者感謝行事 鉄道弘済会　▽全国各地	後援
9/5	第 57 回東京都老人クラブ芸能大会 東京都老人クラブ連合会　▽新宿文化センター大ホール（東京都新宿区）	後援
9/7	第 2 回子ども家庭養育支援ネットワークセミナー 全国子ども家庭養育支援研究会　▽グランヴェール岐山（岐阜市）	後援
9/10～ 12/10	第 70 回手足の不自由な子どもを育てる運動 愛知県肢体不自由児協会　▽愛知県内	後援

日程	催事 主催者　▽会場	
9/11	第 68 回東京都聴覚障害者大会 東京聴覚障害者総合支援機構　▽江東公会堂大ホール（東京都江東区）	後援
9/24	東京光の家チャリティーコンサート　愛のサウンドフェスティバル～平和と希望～ 東京光の家　▽ひの煉瓦ホール（東京都日野市）	後援
9/25	第 9 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンス甲子園実行委員会　▽倉吉未来中心（鳥取県倉吉市）	後援
9/30～10/1	きょうされん第 45 回全国大会 in 東北・いわて きょうされん　▽夢アリーナたかた（岩手県陸前高田市）ほか	後援
10/5～7	第 49 回国際福祉機器展 H. C. R 2022 全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会　▽東京ビッグサイト（東京都江東区）	協賛
10/7～9	第 47 回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会 全日本ろう社会人軟式野球連盟　▽埼玉県営大宮公園野球場ほか（さいたま市）	後援
10/13・14	第 14 回全国精神保健福祉家族大会（2022 みんなネット広島大会） 全国精神保健福祉会連合会、広島県精神保健福祉家族会連合会　▽ JMS アステールプラザ（広島市）	後援
10/24	第 19 回高校生福祉文化賞　エッセイコンテスト 朝日新聞名古屋本社、日本福祉大学　▽朝日新聞名古屋本社（名古屋市）	後援
10/27	第 32 回国民の健康会議 全国公私病院連盟　▽日本教育会館一ツ橋ホール	協賛
10/27	第 43 回全国歯科保健大会 厚生労働省、日本歯科医師会ほか　▽高崎芸術劇場（群馬県高崎市）	後援
10/29・30	リカバリー全国フォーラム 2022 地域精神保健福祉機構　▽オンライン	後援
11/4～6	第 45 回記念大会　日本スリーデーマーチ 日本スリーデーマーチ実行委員会　▽比企丘陵一帯（埼玉県東松山市ほか）	後援
11/12	第 19 回本間一夫文化賞 日本点字図書館　▽日本点字図書館（東京都新宿区）	後援
11/15～12/18	第 26 回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 東京聴覚障害者福祉事業協会　▽オンライン（一部集合）	後援
11/20	第 67 回名古屋市身体障害者福祉大会 名古屋市身体障害者福祉連合会ほか　▽名古屋市公会堂	後援
11/27	第 20 回本間一夫記念　日本点字図書館チャリティーコンサート 日本点字図書館　▽東京文化会館（東京都台東区）	後援
12 月	あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会 あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会　▽オンライン	後援
12/3・4	第 44 回全国視覚障害者将棋大会 日本視覚障害者団体連合　▽戸山サンライズ（東京都新宿区）	後援 助成
12/5～7	第 60 回弘済学園 私たちが創る展 鉄道弘済会　▽ JR 東京駅丸の内地下南口動輪の広場内	後援
12/11	第 61 回愛知県身体障害者福祉大会 愛知県身体障害者福祉団体連合会　▽知多市勤労文化会館（愛知県知多市）	後援

日程	催事 主催者　▽会場	
12/13	令和 4 年度全国社会福祉大会 厚生労働省、全国社会福祉協議会ほか　▽浅草公会堂（東京都台東区）	後援
12/22	愛知県社会福祉協議会設立 70 周年記念　第 70 回愛知県社会福祉大会 愛知県ほか　▽愛知県体育館ドルフィンアリーナ（名古屋市）	後援
12/23	第 71 回東京都社会福祉大会 東京都社会福祉協議会　▽東京都庁第一本庁舎（東京都新宿区）	協賛
12/23	第 17 回チャリティーコンサート 浦和学院高等学校　▽三郷市文化会館大ホール（埼玉県三郷市）	後援
1/20、21	天皇杯第 48 回全国車いすバスケットボール選手権大会 日本車いすバスケットボール選手権大会　▽東京体育館（東京都渋谷区）	後援 助成
2/7～12	第 57 回名古屋市障害者作品展示会 名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会　▽名古屋市博物館ギャラリー	後援
2/25	児童養護実践学会　総会・第 15 回研究大会 日本児童養護実践学会　▽白百合女子大学（東京都千代田区）	後援
3/1～31	2023 年耳鼻咽喉科月間 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　▽全国各地	後援
3/4	メンタルヘルスの集い（第 37 回日本精神保健会議） 日本精神衛生会　▽有楽町朝日ホール（東京都千代田区）	後援
3/5	行動援護フォーラム 行動援護フォーラム実行委員会　▽ホテルニュープラザ久留米（福岡県久留米市）	後援
3/12	第 41 回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい 愛知県聴覚障害者協会　▽ Home&nico ホール（愛知県江南市）	後援

■大阪事務所

4/1～5/25	2022 年度「地域保健福祉研究助成」「ボランティア活動助成」「ビジネスパーソンボランティア活動助成」 大同生命厚生事業団　▽大同生命大阪本社	後援
4 月～ 24 年 3 月	第 58 期　電話ボランティア養成講座 関西いのちの電話　▽博愛社 5 階会議室（大阪市）	後援
5/15	「全国遷延性意識障害者・家族の会」関西ブロック講演会 全国遷延性意識障害者・家族の会　関西ブロック　▽小野市うるおい交流館エクラ　大会議室	後援
6/8～10	バリアフリー2022 大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ　▽インテックス大阪（大阪市）	後援
6 月 19 日	第 40 回日本ライトハウス チャリティコンサート 日本ライトハウス　▽ザ・シンフォニーホール（大阪市）	後援
7/3～4	第 71 回近畿児童自立支援施設野球大会 和歌山県、近畿児童自立支援施設協議会　▽紀三井寺公園野球場（和歌山市）ほか	後援
8/3～7	第 43 回「子どもたちの讃歌」展 大阪府・市教育委員会、大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会　▽江之子島文化芸術創造センター（大阪市）	後援
8/5	令和 4 年度全日本特別支援教育研究連盟・第 59 回近畿特別支援教育連絡協議会　大阪市大会 全日本特別支援教育研究連盟、近畿特別支援教育連絡協議会ほか　▽大阪市立こども文化センター	後援

日程	催事 主催者　▽会場	
9/24	第 4 回「茶の湯文化にふれる市民講座」 表千家同門会大阪支部　▽朝日生命ホール（大阪市）	後援
10/15	素のままフェスタ 2022 豊中市、素のままフェスタ 2022 実行委員会　▽豊中市立文化芸術センター（アクア文化ホール）	後援
10/15、16、22	第 40 回スポーツフェスタ 2022 大阪 大阪知的障がい者スポーツ協会　▽ヤンマーフィールド長居（長居第 2 陸上競技場。大阪市）ほか	後援
11/6、11/19～20	自閉スペクトラム症の子どものキャンプ「のびのびキャンプ」【中止】 関西テレビ青少年育成事業団、アサヒキャンプ、大阪府青少年活動財団（ユースサービス大阪）▽吉野宮滝野外学校（奈良県吉野町）	後援
11/13	第 27 回大阪 YMCA インターナショナル・チャリティーラン 2022 大阪 YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区阪和部・中西部　▽花博記念公園鶴見緑地パーゴラ広場（大阪市）	後援
11/19	第 56 回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー 大阪府肢体不自由児者父母の会連合会　▽大阪府八尾市山城町一丁目第 1 公園（八尾市）	後援
11/25	令和 4 年度大阪府社会福祉大会 大阪府社会福祉協議会　▽大阪国際交流センター・大ホール（大阪市）	後援
11/26	2022 年度医療社会事業従事者講習会 大阪医療ソーシャルワーカー協会　▽オンライン（ZOOM）	後援
2/5	第 50 回全大阪ろうあ者ミニ文化祭 大阪聴力障害者協会　▽大阪市長居障がい者スポーツセンター	後援
2/10～12	2023 国際親善女子車いすバスケットボール大会 日本車いすバスケットボール連盟、大阪市障害者福祉・スポーツ協会、大阪市　▽丸善インテックアリーナ（大阪市）	後援
3/11	令和 4 年度「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」 大阪府、大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター　▽ OMM（大阪市）	後援

■西部事務所

4/10、6/12、8/21	第 12 回全九州ろう社会人軟式野球大会 全九州ろう社会人軟式野球連盟　▽大牟田市延命球場（福岡県）ほか	後援
5/15、5/29	第 60 回北九州市障害者スポーツ大会 北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか　▽北九州市立本城陸上競技場ほか	後援
6/1～6、6/9～13	第 56 回西部伝統工芸展 日本工芸会ほか　▽福岡三越（福岡市）、鶴屋百貨店（熊本市）	協力
6/18～19	第 33 回九州障がい者水泳選手権大会 九州障がい者水泳連盟　▽グローバルマーケットアクアパーク桃園（北九州市）	後援
9/25	第 59 回チャリティー大茶会 茶道裏千家淡交会北九州支部　▽小倉井筒屋新館（北九州市）	後援
10/23	第 59 回福岡県ろうあ者体育大会 社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会　▽福岡市雁ノ巣レクリエーションセンターほか	後援
11/10～12/10	第 70 回手足の不自由な子どもを育てる運動 福岡県肢体不自由児協会ほか　▽福岡市など福岡県内主要都市	後援
2/20～26	第 41 回「肢体不自由児・者の美術展」 公益財団法人福岡県肢体不自由児協会ほか　▽福岡市役所	後援

収支／寄付報告

2022 年度　事業活動計算書より抜粋
（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

単位：円

サービス活動収益		サービス活動費用	
事業収益		事業費用	
高齢者福祉事業	526,366	高齢者福祉事業	21,471,891
児童福祉事業	63,637	児童福祉事業	93,070,209
朝日福祉ガイド（DVD 他）	1,444,895	障害者福祉サービス等事業	19,776,416
チャリティー事業	59,441,816	医療と公衆衛生	1,283,893
経常経費寄付金収益	276,818,530	福祉啓発推進	647,809
		朝日福祉ガイド（DVD 他）	712,970
		チャリティー事業	59,574,863
		人件費	188,221,546
		事務費	75,613,945
		減価償却費	53,589
		徴収不能額	764
サービス活動外収益		**サービス活動外費用**	
受取利息配当金収益	284,238		
		経常増減差額	△ 121,848,413
合計	**338,579,482**	**合計**	**338,579,482**

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

中期計画 2020　～新しい福祉のカタチをめざして～

はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017 年 4 月に本格施行された改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16 年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。

職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね 2020 年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の 3 本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると考えます。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その使途を明確にしました。

さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいっそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

1. 事業団の社会的使命

①ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐな

〈私たちの使命〉

先駆的に取り組んできた歴史を踏まえて未来を見すえ、地域と人を育み、支援の輪をつなぎ、お互いに支え合いだれもが安心して暮らせる社会をつくる

かで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組みでは対応しきれない、介護者（ケアラー）の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

②職員モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

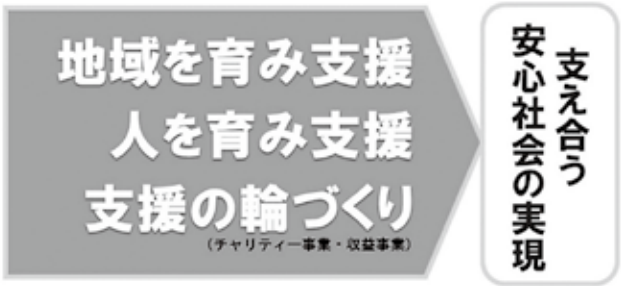
〈活動モットー〉

- 時代に必要とされる仕事をめざす
- 社会的な視点を意識する
- 新たな課題の発見に努める
- スピード感をもって仕事にあたる
- 効果、効率を追求する
- 質の高い仕事をめざす
- 常に仕事を刷新する
- 持続可能な形をめざす
- 当事者を尊重する
- 支援者・寄付者の視点を尊重する

2. 事業展開

①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切にし、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。



2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。

②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。

地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。

3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるよう

つとめます。また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。

②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約 70 パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約 30 パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組みます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化しています。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」の 4 つに分けて設定します。さらに、それぞれに該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1 児童福祉振興基金（含む山岡基金）7 億 2 千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2 地域福祉振興基金 4 億 4 千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設応援助成
3 福祉人材育成啓発交流基金 2 億 7 千 5 百万円	時代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうビジット
4 東日本大震災地域支援基金 2 億 7 千 5 百万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のあたる家 ・被災地訪問プログラム

②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は 4 億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われます。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考えておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNS の社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしていますが、SNS の影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね 2020 年までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカタチをつくっていけるよう、努力してまいります。

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

■関東大震災の救援活動がきっかけに

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診察券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第二次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や医療品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃墟の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

■子どもキャンプ、医療、高齢者…広がる事業

戦後の復興とともに本格的な社会福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ（2021年に終了）、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。

ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。

59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長と共に事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生の

ための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。

「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86 年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

■障害のある人の自立生活を支える

81 年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米 5 カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結 10 周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002 年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンス NIPPON」を開催しました。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。

手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は 84 年にスタートしました。91 年からの「アジア障害者の 10 年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを制作・修理する工場を開設しました。

■相次ぐ災害、救援活動に独自性を発揮

一方、83 年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91 年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。

95 年 1 月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など多岐にわたって活動。2004 年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は 11 年 3 月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は 01 年 4 月 1 日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、23 年には創立 95 周年を迎えます。新聞社の福祉事業として、常に社会の変化やニーズを先取りし、社会意識を高めるための取り組みを続けています。

名　簿

理事・監事・評議員名簿（敬称略、五十音順）

（2023 年 3 月 31 日現在、理事 6 人　監事 2 人　評議員 7 人）

理事長	藤井 龍也	朝日新聞社顧問
業務執行理事	是永 一好	朝日新聞厚生文化事業団理事
理　事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長　元環境事務次官
同	服部 万里子	服部メディカル研究所所長
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	三国 治	元社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
監　事	亀岡 保夫	公認会計士　大光監査法人会長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事（業務執行理事）
評議員	石神 和美	朝日新聞社 CSR 担当補佐兼 CSR 推進部長
同	石渡 和実	東洋英和女学院大学名誉教授
同	大谷 泰夫	社会福祉法人日本保育協会理事長
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	新内 康丈	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	杉村 全陽	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社会長

職員名簿（2023 年 3 月 31 日現在）

【本部】（東京）

事務局長	笠原章宏
事業第一部長	野崎貴士
事業第二部長	宮前　賢
管理担当部長	森浦　浩
広報担当部長	河田有子
	落合すが子
	勝見文子
	古屋厚子
	中村宣人
	古海慶太
	松岡百合

【大阪事務所】

西日本事業部長	
兼大阪事務所長	中谷和司
	小倉玲子
	藤本祐子
	美馬　温
	森田英枝

朝日の社会福祉

令和4年度事業報告　2022

- ホームページ　：https://www.asahi-welfare.or.jp/
- Facebook　：https://www.facebook.com/asahiwelfare/
- Twitter　：https://twitter.com/asahi_welfare
- Instagram　：https://www.instagram.com/asahiwelfare/

朝日新聞厚生文化事業団

■ 本部
〒104-8011　東京都中央区築地 5-3-2　朝日新聞東京本社内
電話　03-5540-7446　　ファクス　03-5565-1643

■ 大阪事務所
〒530-8211　大阪市北区中之島 2-3-18
電話　06-6201-8008　　ファクス　06-6231-3004

※名古屋事務所は2022年8月31日、西部事務所は2023年2月28日に閉鎖しました。
名古屋事務所は本部、西部事務所は大阪事務所で業務を引き継ぎます。